

## 第 207 回 地震予知連絡会 重点検討課題

タイトル「予測の根拠となるモニタリングデータと処理方法」

趣旨説明者 海洋研究開発機構 堀 高峰

昨年度の将来検討ワーキンググループの報告書の中で、「本連絡会の重要な役割は、地震発生の予知・予測を目指したモニタリング結果を中心とした情報交換とモニタリング手法の高度化である。また、地震発生の予知・予測に関する研究の現状を社会に伝えることも、本連絡会の役割の一つであることが次期計画に明示されている。モニタリング結果を中心とした情報交換は、地震本部の地震調査委員会や地震学会でも行われているが、モニタリングに関わる多くの機関の専門家及び関連する分野の専門家が定期的に一堂に会して、公開で地震の予知・予測を目指して議論する場合は、本連絡会以外には無く、今後も継続すべきである。」と書かれている。

この「地震の予知・予測を目指した」議論を、普段からより深めるとともに、わかりやすい形で社会に伝えていく必要がある。そのための手段として、また、「モニタリングとして何が重要かを検討し、また、今の予測能力の実力を把握・提示するために」、予測実験の試行を行うこととなり、「どのような手法や運営がありうるのかについては、しばらくは重点検討課題の一つとして検討を進めることが適切である。」とされ、地震の予知・予測を目指した地震活動やシミュレーション研究についての紹介が、ここ数回の重点検討課題で行われてきた。

今回はそこで紹介された研究を含めて、予測の根拠となるモニタリングデータとしてどのようなものがあるか、予測につなげるためにどのような処理方法がなされているか、どのような形での予測情報がそこから得られるかについて紹介する場を設け、予測実験の試行の具体化に向けた議論を行いたい。とりあげる項目としては、地震活動（静穏化・潮汐相関・ $b$  値変化・前震活動・余震活動等）、地殻変動（プレスリップ・SSE・固着状態変化等）、その他の各種モニタリングデータ（地下水・電磁気等）を考えており、委員を含めて、レビュー的な紹介や議論をして頂ける専門家の方々に講演をお願いする予定である。